

第35回東北地連女性協定期大会開く

多岐にわたる
問題が浮きぼりに

伊藤さんの講演を真剣に聞く参加者

初日は、奥羽大学文学部非常勤講師の伊藤裕顕さんの講演会から始まった。テーマは、「デジタル時代におけるローカル局のステーション・イメージ」。伊藤さんは若手放送に18年間勤務し、その勢いを報道畑に費やした筋金入りの報道マンだ。テレビ

で働く者として熟知したものの「視聴者像」が、実際に奥羽太で接する学生たちから学んだ「本当の視聴者」とは全く異なっていたことについて、分かりやすく説明された。さらに、学生たちを対象にしたアンケート結果から「番組と放送局名の一致度が低いこ

とや「多くのキイ局およびローカル局のステーション・イメージが弱いこと」など、テレビやラジオの世界に身を置く者が真摯に受けとめなければならない現実について警鐘を鳴らした。

り組については、後日「東北地連女性協・やまなみ」に掲載することになった。また、事務局は福島県内のいずれかの労組に引き継がれることになった。

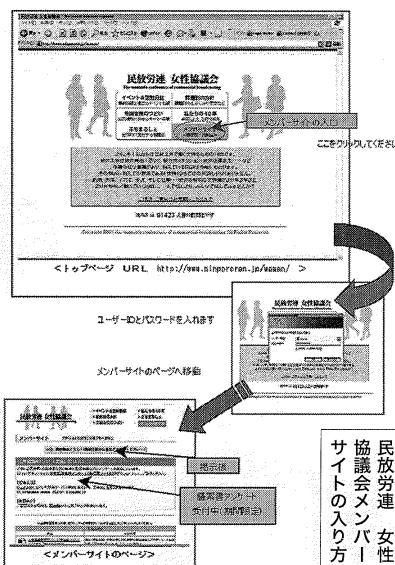
二日目は、朝から定期大会が開かれた。議長の出発および挨拶に続き、各単組の代議員から2003年の活動の総括や現在抱える問題点などについて率直な報告があった。女性が働く上での問題点は多岐にわたるが、セクハラ、女性の昇進、裁量労働の導入、分煙、女性部の活動が少ない等、共通するテーマを抱えている

10月2日、3日に第35回東北地連女性協定期大会が開かれた。今年の大会は、東北地連女性協議会事務局を三期続けた青森から福島に引き継がれたこと

に伴い、福島県石川町の母畑温泉で行われた。参加者は東北地連の執行委員一四人に加え、東北地連から二人、労連女性協から一人だった。



女性協議会



民放労連 女性
協議会メンバー
サイトの入り方